



社団法人 日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム2009

—鋼構造の長寿命を考える—

事前に申し込まれた方には配付資料（CD-ROM 付、年次論文報告集は除く）を無料で差し上げます。

期 日：平成21年11月19日（木）～ 20日（金）
場 所：東京有明・東京ファッションタウンビル 東館 9F
参加費：無料
参加方法：ホームページ(<http://www.jssc.or.jp>)で事前申込みをお願いします。

協賛：独立行政法人都市再生機構 危険物保安技術協会 社団法人建設コンサルタント協会 社団法人建築業協会
 (予定) 独立行政法人建築研究所 建築用アンカーボルトメーカー協議会 一般社団法人鋼管杭・鋼矢板技術協会
 財団法人高速道路調査会 社団法人新都市ハウジング協会 スタッド協会 社団法人ステンレス構造建築協会
 社団法人全国鐵構工業協会 社団法人鉄骨建設業協会 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
 社団法人電気学会 社団法人土木学会 社団法人日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会 社団法人日本橋梁建設協会
 社団法人日本建設業団体連合会 社団法人日本建築学会 社団法人日本建築構造技術者協会
 財団法人日本建築センター 財団法人日本建築防災協会 社団法人日本港湾協会 日本試験機工業会
 社団法人日本船舶海洋工学会 社団法人日本造船工業会 社団法人日本鉄鋼協会 社団法人日本鉄鋼連盟
 社団法人日本鉄塔協会 社団法人日本道路協会 社団法人日本土木工業協会 社団法人日本非破壊検査協会
 社団法人日本防錆技術協会 日本放送協会 財団法人日本溶接技術センター 社団法人日本溶接協会
 阪神高速道路株式会社 社団法人表面技術協会 本州四国連絡高速道路株式会社 社団法人溶接学会

当シンポジウムは、土木学会、建築技術教育普及センターのCPDプログラムとして認定されています。

当協会では、各事業委員会等の活動成果を総合的、機能的に関係させ、会員ならびに鋼構造関係者相互の交流の場として、平成16年度より「鋼構造シンポジウム」を開催しております。

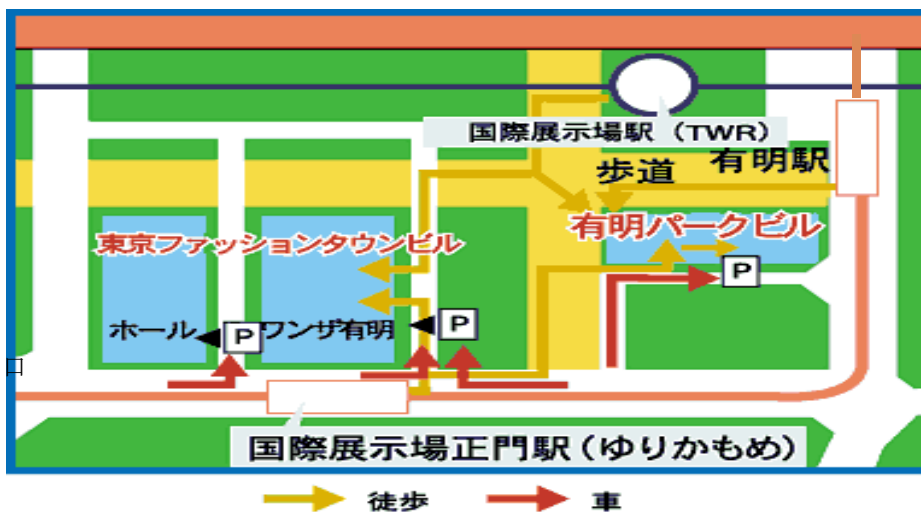
本年度もアカデミーセッション(鋼構造年次論文報告集講演会)、エンジニアリングセッション、特別セッションおよびパネル展示による研究紹介を実施します。

各セッションの主な内容は以下のとおりです。また、初日の17:30より参加者の親睦を図るための懇親会も企画しておりますので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

会場案内図

東京ファッションタウン (TFT)
 (東京都江東区有明3丁目1番)

- ・ 新交通「ゆりかもめ」で新橋から22分。国際展示場正門駅と直結。
- ・ りんかい線「国際展示場駅」下車、徒歩5分。
- ・ 9階へはAエレベーターをご利用下さい。



<お問い合わせ>

社団法人 日本鋼構造協会「鋼構造シンポジウム2009」係
 〒160-0004 新宿区四谷3-2-1 四谷三菱ビル9階
 TEL. 03-5919-1535 Fax. 03-5919-1536
 URL <http://www.jssc.or.jp>

主な内容

各行事の主な内容は以下のとおりです。なお、講師敬称は略させていただきます。

(開催時間、使用会議室、講師、講演順等は変更される場合があります)

特別講演

—「自動車業界の環境車への取組みと三菱自動車の対応」—

電気自動車 [iMiev] の開発

19日(木) 15:15~17:15 9-A会議室

講師：三菱自動車工業(株) CSR推進本部環境技術部 部長：橋本 昌憲

アカデミーセッション(第17回鋼構造年次論文報告集講演会)

19日(木) 10:00~/20日(金) 10:00~ 902・904・905研修室

当協会では、平成5年度から年に1回、「鋼構造年次論文報告集」を刊行し、これに併せて、掲載論文・報告の講演会を“アカデミーセッション”として開催し、鋼構造に関わる研究者・技術者および学生の発表の場、情報交換の場として、好評を博してきました。

本年度で17回目の開催となりますが、これまで同様講演会を行うと同時に、例年実施している“優秀発表”の表彰も行います。

資料：鋼構造年次論文報告集 第17巻 (予定価格10,000円)

特別セッション 1

「ステンレス鉄筋の技術紹介」

19日(木) 10:00~11:30 907研修室

社会基盤構造物に用いられる鉄筋コンクリートに対して、環境性向上の一環として、超長期耐用性能が求められている。

このような社会ニーズに対応するために、ステンレス協会において土木用ステンレス鉄筋(JIS規格済み)、ステンレス構造建築協会で建築構造物用ステンレス鉄筋(大臣認定取得済み)の開発を行いました。

本セッションでは、ステンレス鉄筋の技術的な性能紹介として、研究開発概要、材料特性、並びに適用事例の紹介を予定しております。

特別セッション 2

府省連携「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発プロジェクト」

19日(木) 11:30~12:30 907研修室

平成20年度で終了した経済産業省、国土交通省を始めとする1府4省の連携プロジェクトとして実施された「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物研究開発プロジェクト」の成果概要の紹介として、日本鉄鋼連盟・日本鋼構造協会が実施した、新鋼材「H-SA700」の紹介並びに新鋼材を用いた超高耐震性、環境性を持った新構造システム建築物の一例を紹介を予定しております。

特別セッション 3

「鋼構造物における長寿命化・延命化技術の現状と課題」

19日(木) 13:00~15:00 907研修室
(関西地区委員会)

関西地区研究小委員会活動として建築部門(WG長 京都大学 吹田啓一郎 准教授)では既存構造物の耐震化と既存建築物の長寿命化・延命化を、土木部門(WG長 関西大学 古田均 教授)では長寿命化技術および構造物のモニタリング技術をサブテーマとした研究を実施した成果を、この度JSSCテクニカルレポートNo.88として刊行した。その内容について紹介を行なう。

エンジニアリングセッション:(技術・標準委員会)

「寿命をどのように考えるか」

20日(金) 10:00~12:00 9-A会議室

構造物の寿命は、機能的、物理的、経済的寿命に分類されるものの、実際の寿命を予測することは難しい。構造物の長寿命化の課題を考える上で、多分野では寿命をどのように考えているのかを知ることは重要である。本年は鋼構造物に加えて、自動車およびプラント分野における寿命の考え方を各々披露していただき、議論を行っていくなかで鋼構造物の利点を活かした長寿命化について考えていきたい。

日本鋼構造協会業績表彰

19日(木) 表彰式: 13:00~13:30 9-A会議室

当協会表彰選考委員会では、建築物等の優れた鋼構造物や発表された論文に対し、表彰を行っております。平成21年度業績表彰は次のとおりです。

日本鋼構造協会 業績賞

- 交差点急速立体化技術「すいすいMOP工法」の開発及び実用化
- 先進的な形態の超高層建物「モード学園スパイラルタワーズ」の設計と施工

日本鋼構造協会 論文賞

- 新型延長床版の既設橋への適用と設計
- アスファルト舗装の損傷が鋼床版の局部応力性状に与える影響
- 非弾性域でのウェブ変形の影響を考慮した偏心補剛圧縮部材の弾塑性座屈応力度評価

日本鋼構造協会業績表彰・受賞記念講演

19日(木) 受賞記念講演 13:40~15:00 9-A会議室

日本鋼構造協会 論文賞(各10分)

- 新型延長床版の既設橋への適用と設計
講演者 麓 興一郎(本州四国連絡高速道路(株)企画部企画課長代理)
- アスファルト舗装の損傷が鋼床版の局部応力性状に与える影響
講演者 井口 進(株横河ブリッジホールディングス総合技術研究所課長)
- 非弾性域でのウェブ変形の影響を考慮した偏心補剛圧縮部材の弾塑性座屈応力度評価
講演者 木村 祥裕(長崎大学工学部教授)

休憩（14：10～14：20）

日本鋼構造協会 業績賞（各20分）

□ 交差点急速立体化技術「すいすいMOP工法」の開発及び実用化

講演者 中谷 眞二（三菱重工鉄構エンジニアリング(株)橋梁事業本部評価対策室室長）

□ 先進的な形態の超高層建物「モード学園スパイラルタワーズ」の設計と施工

講演者 山脇 克彦（(株)日建設計構造設計室室長）

「日本－中国－韓国 鋼構造技術交流会」国際委員会）

19日（木）10：00～12：00 9-A 研修室

国際委員会幹事：平岡省吉（(株)大建設計）

11月5～6日、韓国ソウルにて開催された「日中韓鋼構造シンポジウム：テーマ「デザインレコードおよび鋼構造の新技术」」の参加報告ならびに韓国の鋼構造事情について報告する予定である。

研究紹介パネル展示

19日（木）・20日（金） 906 研修室

会員企業・大学・特別会員（協賛団体）等の研究事例等のパネル展示を行い、広く内外に対する情報交換の場としてご利用いただきます。

また、本年も昨年に引き続き談話室としても皆様の交流の場として活用していただきます。

刊行物展示販売

19日（木）・20日（金） 901 研修室

当協会制定の規格・標準類、テクニカルレポート、活動成果報告書、各種講習会テキスト等、鋼構造建築物ならびに鋼橋等に関する資料を販売いたします。

懇親パーティ

19日（木）17：30～ 906 研修室

鋼構造シンポジウム2009参加者の懇親の場をご用意しました。自由にご参加下さい。（無料）
